

平成 20 年カスケード周辺の植栽について

土井環・川口博康

はじめに

カスケードは、正面ゲートから大温室へ向かう、左脇に水の流れを配した階段状の園路である。「カスケード周辺を一年中花で覆うように装飾するとともに、ガーデニングの情報提供の場となるよう、季節を代表する植物や新品種の導入等を図る」ことを目的とし、植栽計画を立てている。カスケード周辺は、来園者にとって植物公園の導入部にあたり、花であふれた空間を演出することは、園全体への期待感を高めることにつながる。また一般市民が比較的に入手しやすい植物を植栽し、同時に飾り方、見せ方の提案も行うことで、家庭園芸普及の一助となることを目指す。

今年度は、懸案であった、カスケードに配置してあるコニファーの改植を行った。

植え付けた植物と展示方法

1. ゲート前

ゲート前に展示した植物は表 1 のとおりである。冬は「ハボタン」、春は「チューリップ」「パンジー」、初夏は「デルフィニウム」「ジギタリス」、夏～秋は「カンナ」「サンパチェンス」、9 月下旬から「コリウス」を加え、これらをメインに展示を行った。

冬のハボタンは、昨年同様、コニファーを中央に配したフォーマルスタイルの寄せ植えとした。色が少なくなる時期なので、エリカ「ウィンターファイヤー」を部分的に配した。

春は、チューリップ、ヒヤシンス、ムスカリを展示のアクセントに用いた。チューリップは、パンジー等とプランターに混植し、ヒヤシンス、ムスカリは、秋に、それぞれ 3.5 号、3 号ポットに仮植しておいたものを、ハボタンを抜き取った後に植えつけた。球根植物は開花期が短い、春の彩りを演出できることから、今後も花色や開花時期を検討して積極的に使用していきたい。また、チューリップは、開花時の草丈に応じて、植えつけるプランターの高さを変えたが、チューリップを抜き取り、パンジーだけになると、プランターとのバランスが悪くなった。高性のものは混植せず、球根のみを密植し、開花後はすみやかに引き上げる方が良いと思われる。球根類の後には、マルチコーレやリクニス等が満開

となった。

デルフィニウムは昨年同様、11 月には種し、4 月に深型プランターに植え付け、5 月上旬から展示した。ブルー系のデルフィニウムと、ピンク系のパンステモン、ジギタリスで全体のトーンを揃え、そこにアクセントとしてイエローのパンジーを加えることで、地味にならず、遠目からも映える華やかな展示となった。デルフィニウムのホワイトは、他の品種と開花期が若干ずれることから、来年度はブルー系の展示の後、ホワイト系でまとめた展示も考えてみたい。

6 月からは、カンナ 12 鉢（φ 30cm）、サンパチェンス約 40 鉢（φ 40、45cm）を展示した。サンパチェンスの鉢数は昨年より半数程度に減らしたが、カンナが草丈 1.5 m 近くに伸び、上部に花が付き始めると、垂直方向への広がりが出て、カラフルでボリュームのある展示となった。カンナは「ビューイエロー」と「ビューブラック」の 2 品種を用い、両品種とも来園者に好評であったが、特に、銅葉で赤花の「ビューブラック」に関心が集まっていた。サンパチェンスは、例年になくホコリダニによる被害が大きく、ニッソラン水和剤等を散布したが、駆除できず、極端に花や新葉が萎縮した鉢（10 鉢程度）は、展示途中で引き上げた。

9 月下旬からは、コリウスのなかでも、比較的低温に強い品種を選び、ポット植えにして展示した。カンナとコリウスの葉色をリンクさせることで、全体を秋色にまとめることができた。

2. カスケード

花壇、大形コンテナに植えつけた植物は、表 2 のとおりである。

花壇について

例年、6 月、9 月、12 月と年 3 回植え付けを行っているが、来園者が徐々に多くなる 9 月に植え替えると、一時的に花壇のボリュームが落ちるため、今年は、6 月に、夏の暑さに強く、11 月まで継続展示できる植物を植え付けた。カラーリーフプランツを随所に用いることで、花が少なくなる盛夏にも、色味がなくならないよう工夫した。特に斑入り植物は、寄せ植えを品良く調和させるのに役立つので、他の草花の花色にあわせて、黄色っぽい斑と、白っぽい斑を使い分けた。12 月には、チューリップを 7 品种植えつけた。これらのうち 6 品種は、ゴールデンウィーク前後に開花する晩生品種とした。花壇

植栽については、各時期とも、同じ植栽パターンを、数ヶ所繰り返し、ボリューム感と統一感を出すようにした。

大型コンテナについて

平成11年度にカスケードの導線を確保する目的で、ゴールドクレストを大型コンテナ（φ60、90cm）に植え付けた。ここ10年で、生育障害等により鉢数は減っていったが、残った6鉢も、部分的に枝が枯れ込んだり、強風が吹くごとに鉢が倒れたり、管理に支障がでてきたため、抜き取ることとした。撤去後、ゲート前で展示していた高さ約1.7mのゴールドクレストを、スタンダード仕立てとし、植え付けた。コニファーは、春から秋は花物を引き立て、冬には、コニファーそのものが、植栽のメインとなる。今後も、形を強調した仕立物を導入し、面白味を出していきたい。また、生育スピードが速いゴールドクレストも、仕立物にし、年に数回こまめに刈り込むことで、若干、大型化を抑えられるものとする。

その他のコンテナは、中央に草丈の高いもの（カ

ンナ、ハイビスカス、デュランタ等）を、周辺に垂れるタイプの植物（ハツユキカズラ、ランタナ、ペチュニア、アルテルナンテラ等）を合わせ、コンテナごとに花色や葉色の組み合わせ方を工夫した。枝が暴れやすいデュランタは、スタンダード仕立てとした。傘を広げたような形が、来園者に好評で、写真を撮る人を多く見かけた。

プランターについて

展示した植物は、表3のとおりである。

2、3月は、ハナナを、昨年の44から79プランターに増やし、カスケードの上部・中央部・下部に置き、全体が黄色に彩られるようにした。

5月からのペチュニアは、昨年より3倍増やし、中段から下段に連続して配置した。切り戻しと追肥を繰り返し、12月上旬まで、ほぼ良好な状態で展示できた。来園者から管理方法を尋ねられることが多かった。

秋の展示のメインとなったのは、昨年に引き続き（株）ミヨシから提供を受けたインパチェンス ファンファレーであった。この植物は、1株で約70cm

表1. ゲート前コンテナにおける主な展示植物と展示期間

植物名	展示期間											
	H20/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
丸葉系ハボタン（丸葉系 白）												
丸葉系ハボタン（丸葉系 赤）												
ヒューケラ「レジーナ」アンバーウェーブ・シルバースクロール												
西洋ヒイラギ「サニーフォスター」												
パンジー												
ビオラ												
エリカ「ウィンターファイヤー」												
ガウル												
ヒアシンス（桃・赤・白・紫）												
ムルガリ・アルメニアカム「カンタブ」												
チューリップ「サーモンインブレーション」												
チューリップ「アプリコットビューティー」												
宿根イペリス												
デージー												
クリサンセマム・ムルチコーレ												
リクニス「ジュニー」												
デルフィニウム オーロラ5品種												
ペンステモン「パイオレットダスク」												
ジギタリス												
カンナ「ビューイエロー」「ビューブラック」												
クロトン「アケボノ」												
アンゲロニア セレナパープル												
フィリカリガネソウ												
オリズルラン												
カリブラコア シャルウィダンス ホワイト												
ペチュニア ショックウェーブ												
ペチュニア ビコベラ												
コンボルブルス・クネオルム												
プレクトランサス「モナラベンダー」												
ロータス「プリムストーン」												
サンパチェンス												
コリウス「ウィンターサン」												
コリウス「ブラックベリーワッフル」												
コリウス「ウォルターターナー」												
コリウス「グレープ」												
ユリオプスデージー												
丸葉系ハボタン（丸葉系 白）												
丸葉系ハボタン（丸葉系 赤）												
エリカ「ウィンターファイヤー」												
コプロスマ												
パンジー												

表 2. カスケードの花壇、大型コンテナに植栽した主な植物

H20/ 3月	5月	6月
ジギタリス	サルビア ‘パープルマジェスティ’ ハイビスカス 斑入りランタナ	青色フジバカマ アガパンサス ‘ブラックブッティスト’ アスチルベ ‘カラーフラッシュ’ アルテルナンテラ ‘マーブルクイーン’ アングロニア セレナ パープル アングロニア セレナ ラベンダーピンク イレシネ ‘ピンクファイアー’ オリヅラン カラテア カリブラコア シャルウィダンス 4品種 カンナ ‘ビューイエロー’ ‘ビューブラック’ クロトン ‘アケボノ’ ゲラニウム ロザンネイ コルジリネ ‘パープルタワー’ デュランタ トウガラシ ‘ブラックパール’ トケイソウ ‘アラードイ’ ‘コンスタンス エリオット’ トレニア バイロニー ハイビスカス パキスタキス・ルテア ヒマワリ ‘ダブルダンディ’ ‘マンチキン’ ヒボエステス 斑入りエンジェルストランペット フィリカリガネソウ 斑入りランタナ プレクトランサス ‘モナラベンダー’ ペチュニア ラテリーナ パープル・ホワイト ロベリア ‘ビクトリアクイーン’ 芳香しだれランタナ 紅紫花・白花 ヨウシュコパンノキ
7月	8月	9月
アルテルナンテラ ‘マーブルクイーン’ オリヅラン ゴールドクレスト デュランタ トレニア ハイビスカス ハイビスカス・アーノッティアヌス 斑入りスパティフィルム 斑入りパンドレア ペチュニア ショックウェーブ 2品種 ペチュニア ラテリーナ パープル・ホワイト	サギソウ サルビア ‘ホットリップス’ ピンカ シルバープリンセス 斑入りレッド 斑入りツルハナナス	コスモス ゴールドクレスト サルビア・スプレnden
10月	11月	12月
プレクトランサス ‘シルバーシールド’	パンジー マトリックスイエロー パンジー マトリックスオレンジ (チューリップ ‘インベリアルレッド’)	アリッサム スノークリスタル キンギョソウ ラブミー コプロスマ 宿根イベリス ハボタン 白はと ハボタン 紅はと パンジー いちごショート パンジー エンビー パンジー オトノ イエロー パンジー オトノ ピンクシェード パンジー ナチュレ イエロー パンジー ナチュレ クリアレモン パンジー ナチュレ フロスティローズ パンジー ハロウィン パンジー マトリックスイエロー ビオラ リクニス ‘ジュニー’ ローズマリー ワスレナグサ (アリウム ギガンチウム) (チューリップ ‘アドリアントドミニック’) (チューリップ ‘アンジェリケ’) (チューリップ ‘グリーンランド’) (チューリップ ‘ゴールデンアーチスト’) (チューリップ ‘ダベンポート’) (チューリップ ‘ダンシングショー’) (チューリップ ‘ナイトライダー’) (チューリップ ‘ハリウッド’) (チューリップ ‘バーガンドレース’) (チューリップ ‘ブラッシングビューティ’) (チューリップ ‘フレーミングパーロット’) (チューリップ ‘ラカルティーン’)
() は球根の植え付け		

表3. カスケードにおけるプランター等展示植物と展示期間

植物名	数量	展示期間											
		H20/ 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ユリオプスデージー	9				→								
パンジー 3品種	43				→								
ハナナ (京都伏見寒咲花菜)	79			→									
アイスランドポピー	24			←	→								
ワズレナグサ	23			←	→								
ペチュニア サルサ 6品種	43				←								
カリフォルニアローズ フィエスタ 6品種	24						←						
カリブラコア セレブレーション 3品種	18					←							
ジギタリス	6					↔							
ユリ 'カサブランカ'	40							↔					
インパチエンス ファンファーレ 2品種	34							←					
サルビア・レウカンサ	8								←				
コリウス 'チェリースター'	7									←			
コリウス 'ブラックベリーワッフル'	4										←		
コリウス 'ウォルターターナー'	4											←	
コリウス 'ペイズリー'	3												←
コリウス 'ウィンターサン'	2												←
ミナ ロバータ ジェンゲルクイーン	1												←
パンジー	36												←
ハナナ (京都伏見寒咲花菜)	79												←

表4. カスケードにおけるハンギングバスケット展示植物と展示期間

植物名	数量	展示期間											
		H20/ 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハボタン・ビオラ	12					→							
ガーデンシクラメン・アイビー	7				→								
パンジー・アイビー	4				↔								
ペゴニア・オリヅラン・アイビー	13					←							
カランコエ	3					←							
オリヅラン・アイビー	1					←							
マリーゴールド	14										←		
ハボタン・ビオラ	12											←	
ガーデンシクラメン・アイビー	7											←	

と大型になるが、若干茎がしだれ、優しい雰囲気も持ち合わせている。昨年栽培した品種の中で、特に花付きが良く、安定して咲いたオーキッドとブラッシュを展示した。特にオーキッドは、遠くからでも花色が映え、カスケードでの展示効果が高かった。同時にミヨシから提供を受けたカリフォルニアローズは、盛夏には、若干花を休んだが、秋には花色も冴え、長期間展示できた。ただし、毎日、花びらが散り、開園前の掃除に手間を取られた。

ロングランの植物が多いため、初夏には、ジギタリス、夏にはユリ 'カサブランカ'、秋にはコリウスなど、季節感を出す植物を加えるとともに、プランターの配置を頻繁に変えるなどして、来園者に飽きられないよう工夫した。

ハンギングバスケットについて

展示した植物は、表4のとおりである。

ハンギングバスケットの普及をめざすため、身近な花材を用いたシンプルな組み合わせとした。作成は、植物友の会管理ボランティアに、デザイン及

び制作指導は、日本ハンギングバスケット協会広島支部に依頼した。ハボタンとビオラのバスケットは、3月上旬に、ハボタンのみを花茎から切り取ることで、植え替えの手間をかけず、5月中旬まで展示した。ガーデンシクラメンとアイビーのバスケットは、4月上旬にガーデンシクラメンのみ抜き取り、あらかじめ大きくしておいたパンジー（3.5号）を側面に6株、上面に2株植えつけ、5月下旬まで展示した。初夏のバスケットは、昨年に引き続きペゴニア・センパフローレンスを使用した。その他、夏用花材の試作用に、カランコエ単用のものとオリヅランとアイビーのものを作成した。ペゴニア・センパフローレンスは梅雨時期に傷むことなく、11月まで展示できた。カランコエは、徐々に花が少なくなっていくが、株が腐ることはなく、秋には温室に取り込み、12月からはまた花芽が上がってきた。オリヅランは、ランナーがどんどん伸び、動きのあるバスケットになった。11月下旬に引き上げるまで、ほとんど手間いらずで、管理に手がかけられない人には、おすすの花材

であると思われた。秋用に作成したマリーゴールド単用のバスケットは、植えつけ時の苗の状態が悪く、きれいに茂ることがなかった。冬用のバスケットは、昨年同様、ガーデンシクラメンとアイビー、ハボタンとビオラを用いた。

維持管理

維持管理状況は、昨年とほぼ同様である。6月中旬～10月中旬は、プランターについては、ほぼ2週間おきに、その他大型コンテナ、花壇部分については、3週間おきにペレックス等で追肥を行った。ゲート前のサンパチェンスは、8月から週1回の割合で液肥（500倍希釈）も散布した。長期間の栽培となった植物は、定期的に軽い切り戻しを行った。ペチュニアは、6月～9月に月2回、サンパチェンス、インパチェンス ファンファーレは、7月～9月に月1回実施した。7月下旬には、プランター類にはすべて増土を行った。大型になるサンパチェンスとファンファーレは、盛夏には萎れがはげしく、朝、夕2回のかん水が必要となった。またサンパチェンスには、生育後半に、オンシツコナジラミ、ホコリダニが発生した。カルホス乳剤やニッソラン水和剤等の登録農薬を数回散布し、害虫の密度を減らすことはできたが、完全には駆除できなかった。

今後の課題

「カスケード周辺を、一年中花で覆うように装飾する」ために、まず、季節ごとにメインとなる植物を検討し、ここ数年で、ある程度、植物のローテーションは確立できた。今後は、効率的かつ効果的な展示方法についても、検討していく必要がある。

1. ゲート前

どのように植物を配置するかで、来園者に与えるインパクトは大きく変わってくる。そのため、見頃の植物が移るごとに、コンテナの配置換えが必要となる。実際に現場に置いてみないと、最適な配置は見つけにくいので、重量のあるコンテナを移動、バランスを見て、また移動という手間のかかる作業を根気良く繰り返すこととなる。「全体は左右対称のフォーマルスタイルとし、まずコニファー等高さのある植物を配して展示の骨格を決める」「植物の種類はシンプルにし、展示期間が重なる植物は色のトーンを揃える」。これらを基本の考え方として、植物を無理なく自然に調和させる展示を目指す。まず、メインの植物ごとに、おおまかな配置パターン

を検討していく。配置パターンが決まれば、コンテナの移動作業が軽減化できるとともに、メインの植物にどの植物をどう合わせていくか等、展示のレイアウトを具体的に詰めていくことも可能になる。

2. カスケード

カスケードの広い空間を花で埋めるために、メインとなる植物は、プランター等、移動可能なコンテナ植えとし、これらの数量も、年々増加させてきた。今後は、管理面とのバランスを考慮しつつ、最適な数量を決めていくとともに、エリアごと、季節ごとに、展示の意図をはっきりさせ、全体としてまとまりのある空間を目指す。

カスケードは奥行きがあるため、下段、中段、上段と3つのエリアに分け、以下の基本的な考え方をベースに展示を行う。まず下段は、カスケードのメインとなるエリアであり、季節感のある植物を用い、ボリューム感と華やかさを出す。中段は、下段の植物と調和するように流れを作る。上段は、遠くから見ても、色が際立つような明度の高い花色を持つ植物を展示する。エリアごとのポイントを踏まえた上で、カスケードもゲート前と同様、季節を代表するメインの植物に来園者の視線が集まるよう、季節ごとにプランター等の配置換えをしていく。この場合、パンジーやペチュニアなどロングランの植物の配置が問題となる。これらは、花の絶対量を保つには、必要な植物だが、展示後半には、惰性で並べてある季節はずれの植物と受け取られがちである。必然性のある植物として、展示するには、メインの植物とどう組み合わせるかが重要となる。色のトーンを揃えるのか、アクセントとして用いるのか等、役割をはっきりさせることで、全体として統一感が生まれ、違和感のない展示となる。また、事前に後半の用途まで検討しておくことで、プランターの花色やその数量に無駄がなくなり、効率的な管理ができるものと思われる。